

関連要因からみた老年的超越の概念構成

辻倉 芽生菜

高齢期になると、身体・認知機能などが衰えたり、退職により社会的役割を喪失したりと、様々な変化を経験する。これまでそうした中で高齢期の望ましい生き方（サクセスフル・エイジング）を捉える考えや理論がいくつか唱えられてきたが、これらは研究者によって定義されたもので、高齢者自身の考え方が十分に理論に反映されていなかったという問題があった。一方、老年的超越は、高齢者へのインタビュー調査も踏まえて高齢期の世界観や自己態度の発達変容を捉えた理論である。老年的超越とは、物質主義的・合理的な世界観から、宇宙的・超越的な世界観へと価値観や心理・行動が変化することだと定義されている（Tornstam, 1989）。老年的超越は、理論的にも多くの先行研究においても、幸福感と関連があるとされているため、これは新たな高齢者のサクセスフル・エイジングのあり方を見出す理論として大いに注目すべきであると言える。また、ゆえに老年的超越を促しうる要因はあるのかを検討することも重要であろう。

そこで、本研究では、(1) 老年的超越が人生満足度と関連があるのかを確認すること、(2) 老年的超越の関連要因を検討することを目的として分析を行った。

その結果、90代では相関のある因子が減少するものの、70代と80代では、おおむねすべての老年的超越の因子と人生満足度に有意な相関があったと言えた。また、一部の因子との相関は負であったが、多くは正の相関を示していた。関連要因については、老年的超越は、年齢、性別、慢性病既往数、社会活動、ソーシャルサポート、宗教活動と先行研究と概ね同様の関連を示し、これらが老年的超越の関連要因となると明らかにできたと言える。一方、先行研究も少なく、本研究だけで結論づけられる結果を得られなかった変数もあった。身体状況は、仮説に反して老年的超越と正の関連を示す因子が多くなっていった。認知機能は、仮説通り老年的超越と負の関連を示す因子も多かったが、一部正の関連を示すものもあった。世代性は、仮説通り多くの因子と比較的強い正の関連を示したが、これは世代性と老年的超越の概念的類似性によるものである可能性がある。

本研究では、老年的超越が高齢期の幸福感と関連のある概念であることを実証し、そして、老年的超越の関連要因として明確化された点と、今後研究されるべき点を明らかにした。また、老年的超越には、宇宙的領域、自己領域、社会との関係性領域と幅広い要素を含むが、本研究の結果、男女間・年代間で異なる因子に関連が見られたり、関連の正負の方向が異なっていたりしており、全員が必ずしも老年的超越の要素すべてを同様に発達させるわけではなく、個人により発達させる側面が異なるということも、本研究において示すことができた点である。老年的超越研究の多くは、現状西欧で行われているため、様々な国において今後研究が進むことが望まれる。また、老年的超越の発達メカニズムをより詳しく知るためには、高齢者だけではなく、若年者も対象にした調査も有用であろう。今後の研究では、それも踏まえた上で、本論文で言及した今後の研究課題点が検討されることを期待する。（臨床死生学・老年行動学）